

ブヌン語南部方言のつなぎ形態素 **-na-**

野島本泰

nojima.motoyasu@gmail.com

問題

ブヌン語南部方言には形態素 **na** がある (例 1b, 1d)。これは何? 意味は? 機能は?

- (1) (a) i-sisila (～に於いて-端) 「端に (いる)」
 (b) m-akus-**na**-sisila (行為者焦点-現れる-**na**-端) 「端に現れる」
 (c) kau-ngadah (～へ-中) 「中へ (行く)」
 (d) ma-kau-**na**-ngadah (行為者焦点-投げる-**na**-中) 「中に投げる」
 (e) ma-pit-'amin (行為者焦点-炊く-全部) 「全部炊く」

◆問い: **na** が出たり出なかったりするの、なぜ?

序論

- ブヌン語の概略:
 - ・台湾中南部, オーストロネシア語族。
 - ・音素 (南部方言の): p b v m t z [ð] d n s l [ʰ] k ŋg [ŋ] h [h ~ χ] ' [ʔ] a i u。
 - ・述語が節頭。フィリピン型ボイス (いわゆる 'focus' system)。
 - ・膠着語的: 接辞付加, 重複, 複合。語彙的接辞が豊富(Nojima 1996)。
- 研究方法: 常識的な記述研究。
- データ: 引用箇所以外は, 発表者自身の調査 (1991年～2017年, 高雄市那瑪夏区)。

先行研究

na はほとんど注目されてこなかった。グロスで触れる程度の研究しかなかった。

- 「位置」(小川・浅井 1935)
- 「-NA-」(野島 2009)
- 「つなぎ形態素」(野島 2016)
- 「某所から」「接頭辞」(林ほか 2001)
- 「方向」「に於いて」(黄・施 2016)

分析

ブヌン語の動詞接頭辞と動詞語基それぞれに2つの下位類を設ける。辞書の中で, 接頭辞や語基1つ1つに場所性を指定する。

●動詞接頭辞の2つの下位類

LPx (locational prefix) : 場所性接頭辞

(例)	i- 「～に於いて」	kau- 「～へ」
	aisi- 「～から」	tauna- 「～に着く」
	maka- 「～を通過して」	taki- 「～に住んでいる」
	sai- 「～へ行った」	taingka- 「母方の姓は～だ」

NPx (non-locational prefix) : 非場所性接頭辞

(例)	k- 「食べる」	tu- 「言う (口で音を出す)」
	akus- 「現れる」	it- 「死ぬ」
	kau- 「投げる」	pit- 「炊く」

●動詞語基の2つの下位類

LBs (locational base) : 場所性語基

(例)	dadaza 「上」	nastu 「下」
	ngadah 「中」	sisila 「端」
	baav 「山の上の方」	baah 「山の下の方」
	lumah 「家」	vahlas 「川」

NBs (non-locational base) : 非場所性語基

(例)	tama 「父」	nusung 「臼」
	bungu 「頭」	dihanin 「空」
	daan 「道」	huma 「畑」
	hna 「再び」	amin 「全部」

■LPx と LBs の結合の例 :

(2) dadaza 「上」	(a) i-dadaza 「上に於いて」	(b) kau-dadaza 「上へ」
(3) nastu 「下」	(a) i-nastu 「下に於いて」	(b) kau-nastu 「下へ (降りる)」
(4) ngadah 「中」	(a) i-ngadah 「中に於いて」	(b) kau-ngadah 「中へ (入る)」
(5) lumah 「家」	(a) i-lumah 「家に於いて」	(b) kau-lumah 「家へ (帰る)」
(6) nata 「家の外」	(a) i-nata 「家の外に於いて」	(b) kau-nata 「家の外へ」
(7) sisila 「端」	(a) i-sisila 「端に於いて」	(b) kau-sisila 「端へ」
(8) isa 「どこ」	(a) i-'isa 「どこに於いて？」	(b) kau-'isa 「どこへ？」
(9) 所格標示詞 sia	(a) i-sia 「～に於いて」	(b) kau-sia 「～へ」

■LPx の表す意味

- (i) 空間上の関係 : 静止位置 (～に於いて), 方向 (～へ), 起点 (～から) など。
- (ii) できごと : 居住 (～に住んでいる), 経由 (～を通過して), 到達 (～に着く) など。
- (iii) 「～へ (行った/来た)」 (「過去時」の概念を内含している点で特殊)。
- (iv) 「母方の氏族は～だ」。

注：ブヌン語では、母方の氏族を尋ねるには isa 「どこ？」を用いるのに対し、父方の氏族を尋ねるには maaz 「何？」を用いる。

■NPx の表す意味

「現れる」、「泣く」、「笑う」、「寝る」、「夢を見る」、「死ぬ」、「燃える」、「風が吹く」、「臭う」、「叩く」、「刺す」、「噛む」、「足でする動作」、「撃つ」、「切る」、「運ぶ」、「使う」、「なる（状態変化）」、「握る、掴む」、「投げる、捨てる」、「作る」、「見る」、「聞く」、「食べる」、「飲む」、「煮る」、「炊く」、「着る」、「履く」、「追う」、「与える」などのできごと。

■動詞接頭辞 LPx, NPx と動词语基 LBs, NBs の結合可能性について、次のことが言える。

(α) LPx は、LBs とのみ結合する。NBs とは結合しない。(例 10～例 14)

(β) NPx は、NBs, LBs のいずれとも結合する。その際：

(β-i) NBs と結合する場合は直に（間に何も介さずに）結合する（例 15～例 17）。

(β-ii) LBs と結合する場合は間に na を介して結合する（例 18, 例 19）。

まとめると、表 1 のようになる。

表 1：接頭辞と語基の結合可能性

	LBs	NBs
LPx	+	-
NPx	+ (-na-)	+

例：

(10) i-sisila 「端に於いて」 (=1a)

LPx(に於いて)-LBs(端)

(11) kau-sisila 「端へ」

LPx(へ)-LBs(端)

(12) kau-ngadah 「中へ」 (=1c)

LPx(へ)-LBs(中)

(13) kau-sia nusung 「臼へ」

LPx(へ)-LBs(場所格) NBs(臼)

- (14) *kau-nusung 「臼へ」
LPx(へ)-NBs(臼)
- (15) is-kau-'amin 「全部投げる」
道具焦点-NPx(投げる)-NBs(全部)
- (16) m-akus-uhna 「再び現れる」
行為者焦点-NPx(現れる)-NBs(再び)
- (17) ma-pit-'amin (行為者焦点-炊く-全部) 「全部炊く」 (=1e)
行為者焦点-NPx(炊く)-NBs(全部)
- (18) m-akus-na-sisila 「端に現れる」 (=1b)
行為者焦点-NPx(現れる)-na-LBs(端)
- (19) ma-kau-na-ngadah 「中へ投げる」 (=1d)
行為者焦点-NPx(投げる)-na-LBs(中)

黄・施(2016)は、na に対し、「～に於いて」や「方向」というグロスをあてている。それに対し、本研究は「接頭辞と語基の場所性が異なる場合にその不一致を調整する」という働きを na の機能だと考える。

na が、場合に応じて「～に於いて」と訳せたり、「方向」というグロスを付けたりできる、という事実はそのアダプタとしての機能から説明できる。逆に、na が「～に於いて」という意味や、「方向」標示の機能を本来的に持つのだと考えるのであれば、例(1a)や(1c)において na が現れないのはなぜなのか、別の説明を考えなければならなくなる。

na は語基との位置関係からいえば接頭辞だということになる（語基の前に現れるのだから）。だが、ブヌン語の他の接頭辞とは異なり、na は語頭には現れない。この事実も na の機能から説明できる。na は、自分の前に来る動詞接頭辞の場所性と、自分の後ろに来る動詞語基の場所性がともに決定してはじめて自分が出るか出ないかが決まるのだから、接頭辞がそこになければ na もまた現れることができないのだ。

以上から、na は「動詞接頭辞と動詞語基の場所性が異なる場合に、その不一致を解消、調整するために現れるつなぎ形態素」と見なせる。

結論

- (A) na はつなぎ形態素である。
- (B) 機能：接頭辞と語基の場所性の不一致を解消，調整する働き。
- (C) 意味：積極的に何かを表すわけではない（静止位置，方向，起点のどれも表せる）。
- ◆答え：接頭辞と語基の場所性は，一致していることもあれば，一致していないこともあるから。

本研究の意味

(ア) [ブヌン語辞書の編纂にとって] 母語話者の知識を正しく反映している。形式とその意味を正しく予測する。辞書編纂にたいへん有用。

(イ) [台湾南島諸語の歴史研究にとって] サオ語（ブヌン語と地理的に隣接する南島語族の言語）も **-na-** を持つ (Blust 2003, 野島 2018)。機能も酷似。構造上の類似。同源か借用か。もし借用だとしたら、「サオ語にはブヌン語からの語彙、音韻の借用はあるが、形態法の借用はほとんどない」(Li 2013)という、従来の認識を改める必要が生じる。

(ウ) [形態論（語形成における単位に関する研究）にとって] 接間辞(interfix) (Mugdan 2015)。複合語の接合要素ではなく、派生において、語基の前に現れる *postprefixal interfix* の一つか。だとしたら、ロマンス諸語の *presuffixal interfix* (Roché 2015) と鏡像関係？

(エ) [場所性の理解のために] 場所性/トコロ性 (寺村 1968) が関わる文法現象の一つ。日本語の「(お父さんの) **ところ** (へ行きなさい)」(田窪 1984 : 「場所化の接辞」) とは異なり、(シンタクスではなく) 純粹に語形成において場所性が作用している事例。

参考文献

- Blust, Robert. 2003. *Thao dictionary*. Taipei: Institute of Linguistics, Academia Sinica.
- 黃慧娟, 施朝凱 2016. 『布農語語法概論』台北：原住民族委員會.
- Li, Paul Jen-kuei. 2013. *Thao loans from Bunun*. *Bulletin of Chinese Linguistics* 7.2:225-241.
- 林太, 曾思奇, 李文甦, 卜袞・伊斯瑪哈單・伊斯立端. 2001. 『Isbukun 布農語構詞法研究』台北市：讀冊文化
- Mugdan, Joachim. 2015. *Units of word-formation*. In: Müller, Peter O. et al.(eds.) *An international handbook of the languages of Europe. Volume 1. Word-formation.*, 235-301. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Nojima, Motoyasu. 1996. *Lexical prefixes of Bunun verbs*. *Journal of the Linguistic Society of Japan* 110: 1-27.
- 野島本泰. 2009. 「ブヌン語（南部方言）における三種類の「前置詞」」大西正幸・稲垣和也（編）『地球研言語記述論集 1』（京都：総合地球環境学研究所），83-94 頁
- 野島本泰. 2016. 「ブヌン語動詞形態論（第三部）空間的接頭辞」言語記述研究会第 74 回例会の配布資料（未公刊）.
- 野島本泰. 2018. 「サオ語のつなぎ形態素-na-」言語記述研究会第 86 回例会の配布資料（未公刊）.
- 小川尚義, 浅井恵倫 1935. 『原語による台湾高砂族伝説集』東京：刀江書院.
- Roché, Michel (2015). *Interfixes in Romance*, Müller et al. (eds.), 551-568.
- 田窪行則. 1984. 「現代日本語の「場所」を表わす名詞類について」『日本語・日本文化』12: 89-117.
- 寺村秀夫. 1968. 「日本語名詞の下位分類」『日本語教育』12: 42-57.

曾思奇. 2006. 「Isbukun 布農語基本詞綴的語義分析」 張永利, 黃美金, 何大安 [編] 『百川
匯海：李壬癸先生七秩壽慶論文集』 台北：中央研究院語言學研究所, 365-383.
張玉發 [編] 2016. 『戀群布農語簡易詞典』 花蓮縣：一串小米族語獨立出版工作室.
曾毓芬 [ほか] 2010 『台灣原住民族布農族樂舞教材』 屏東縣瑪家鄉：原民會文化園區.

謝辞：この研究で用いた言語資料の収集では、数多くの母語話者の方々にお世話になっ
た。心からの謝意を表したい。